

---

# ドラえもん のび太のバイオハザード X FIGHTERS

小河健太

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ドラえもん のび太のバイオハザード X FIGHTERS

### 【Nコード】

N3854V

### 【作者名】

小河健太

### 【あらすじ】

ススキケ原を脱出したのび太達は鹿児島に向かった！

これは、ドラえもん のび太のバイオハザード 全ての始まりの続編です。

できるだけそっちから読んでください。

いきなり強引だね！オイッ！

鹿児島県A市

小河「あゝそうだ」

ドラ「どうしたんだYO」

小河「また出たよラップ風雨のやつ」

のび「ラップ風雨って何だよ、サランラップに雨風吹きまくりか？」

小河「うるせえよラップ風って言いたかったんだよ」

ドラ「また出て悪かったな、で、どうしたんだ？」

小河「いや、いろいろと問題点があるのを思い出した、分身とか作る道具ねえのか？」

ドラ「あるよ、違法道具No.2分身製造機」

安雄「No.1は何だよ」

ドラ「違法道具No.1はロボット製造機だよ」

溺杉「あれって違法だったんかい~~~~~」

ドラ「あんなのがちゃんとした製品のわけねえじゃねえか。溺

杉、お前は馬鹿か？至上的最強のバカか？ いいのは名前だけ・・・今はヒドイか」

溺杉「俺のことは放って置いてくれ・・・」

のび&ドラ「やなこった、お前は一生こんなことになるのだ！」

溺杉「ガーン!!!」

ドラ「と、言うわけで違法道具No.3何かがおコール」

小河「スコールの紛い物かよ、おい！」

ドラ「違う」

小河「と、というか俺の分身の祟はどうなった？」

ドラ「そうだった、今からやるぞ」

5分後

小河「終わったみたいだな」

小河B「じゃあ、俺はどうするんだ？」

小河「お前は家に帰っておけ」

小河B「了解」

安雄「何か不気味だな・・・」

ドラ「そういう道具なんだよ」

鳥柴「あゝそろそろ行かないと日が暮れますよ」

小河「・・・」

鳥柴「小河さん？何をやってるんですか？」

小河「マリオカートアドバンス」

鳥柴「置いていきますよ」

小河「わーっ たよ」

そのころ小河宅

小河弟「あー俺のDSどこ言った！兄ちゃん、知らない？」

小河B「は？何で俺なんだよ」

小河弟「一番どっかやりそうだから・・・」

バス

小河「ヘエーックシヨイ！」

ジャ「きつたねえ！風邪でも引いたか？」

小河「知らねえ、風邪じゃねえから誰かうわさしてたかな」

安雄「うわさで本当にくしゃみがでるのかな？」

そして、

バツキヤーン！

のび「おわわっ！！！」

スネ「何があったんだよ」

鳥柴「SAに無理矢理突っ込みました」

小河「絶対死人が出たな」

鳥柴「16人ぐらい踏み潰しました」

骨川「おいおい、それを冷静に言うとか頭おかしいじゃないの？」

鳥柴「悪かったですね」

小河「あーあ、これにあのクソハゲがいればよかったのにな」

ドラ「誰か知らんけどクソハゲは死ねばよかったって・・・」

小河「マジでそうだから、俺的に死ねばいい人ランキング第1位のび「つかクソハゲって誰？」

小河「うちの学校の体育教師。すっげえウザイ」

安雄「そうなんだ」

そして、無理やり桜島SAから突っ込み、九州自動車道本線へ。

小河「で、料金所はどうすんの」

鳥柴「強行突破です」

小河「おいおい」

んで、鹿児島バリア（本線途中の料金所）

スネ「料金所にだれもいない・・・」

鳥柴「ラッキーですね」

小河「一応料金置いて行ったら？」

鳥柴「いくらですか？」

小河「えーっと、たしか始良ICから600円だから700円ぐらい置いていけば？」

鳥柴「600円ですね」

小河「いや、だから・・・」

何にも聞かずに発進

小河「聞けよ」

鳥柴「600円って言ったのは誰ですか？」

小河「いや、俺だけど・・・」

鳥柴「だから600円です」

小河「・・・」

鹿児島北IC

鳥柴「ここで下りればいいですよね」

小河「ここでいいはず」

国道3号線

のび&安雄「腹減った」

ドラ「そういえば俺も腹減った」

鳥柴「そろそろ昼食でも食べますか？」

全員「さんせーい」

鳥柴「小河さん、ここいらへんに食べ物屋さんありますか？」

小河「マックがある」

のび「じゃあそこに行こう！」

そして、マック

小河「レジに誰もいない・・・」

安雄「その代わりになんか変な音がするし、レジが血まみれ・・・」

」

グチャ、グチャ、グチャ

骨川「なぐんか嫌な予感・・・」

溺杉「誰かレジ見る？」

小河「じゃあ誰が行く？」

静香「俺は断る」

ジャ「よし！俺が行くぜ！」

誰か「ジャイアン逝けえ！」

ジャ「誰だ！ジャイアン逝けえって言ったのは！」

小河「そんなこといいからさっさと見ろ！」

ジャ「分かったよ・・・」

ジャイアンはレジを覗く。

そこでジャイアンが見たものは！

15時37分

次回へ・・・

## 悪夢の再開・・・

のび「これは・・・」

小河「何かあったのか？」

ジャ「どれどれ」

さらに2人レジを覗く。

そこで見た光景は・・・

もちろんゾンビが人間を食べているところである。

小河「あのさあ、ここでこれはないよな」

ジャ「そうだよな」

のび「同じく」

静香「おい、おめえら何やって・・・んだ」

ドラ「俺も見てみよ・・・う」

静香「チョットタシマ、何でゾンビ？」

ドラ「さあ？アンブレラの糞野郎どもが俺達が来るのを察していたとか？」

ブルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルルル

ドラ「ん？ケータイが鳴ってる」

ピッ！

ドラ「はい、ドラえもんです」

社員「ドラえもんさん、こんにちは」



ドラ「ゲツ！お前は！アンブレラの社員か！」

社員「配送です、やっぱり来ましたね」

ドラ「うるせえよ」

社員「また、ススキケ原同様に6日後の8月26日にミサイルを落としますので！」

ドラ「また核か？」

社員「とんでもない！今度はナカタコトニナールというミサイルです」

ドラ「じゃあ、俺らも喰らっても死なないと」

社員「いいえ、あなたたちは死にます」

ドラ「なんじゃそりゃあ！」

社員「そういうミサイルなので情が無いです」

ドラ「・・・」

社員「あと、前回同様壁がありますんでそこは覆えといてくださいな！それじゃあ」

ピッ！プー。プー。プー。プー。プー。

ドラ「最悪だ・・・」

小河「何の電話だった？ドラちゃん」

ドラ「ドラちゃんじゃねえわボケ！」

小河「は？文句言うとビームライフルでまた右腕溶かすぞ」

ドラ「ごめんなさい！」

小河「よろしい」

そうしている間にゾンビがこちらに気づいた！

ゾン「アアアアアアアアアア」

溺杉「！！！！！！！！ゾンビだ！」

骨川「なんでまた！」

静香「俺のRPG-7は！」

鳥柴「バスの中です！」

静香「わかった！すぐ取ってくる！」

30秒後

静香「全員外に出ろ！」

全員「了解！」

静香「おらああああ！！！！！！！！！！！」

バシューン！

ドガン！

マックごとゾンビを吹き飛ばした。

のび「流石静香ちゃんのRPG-7、マックの建物ごと吹き飛ばしたよ……」

小河「ホント強引だな……」

安雄「あそこに木箱があるぞ！」

ジャ「行ってみよう」

そして、木箱のところ

小河「開けるぞ……」

全員「ゴクリ……」

パカッ！

中に入っていた物

M37（ショットガン）×2

ショットシエル×5

スタングレネード×50

火炎瓶×10

小河「M37・・・12ゲージショットガンか・・・これたしかメタルギアソリッド3であつたような気がする・・・これで敵兵を至近距離で撃つたらけっこう吹っ飛んだような気がする」

のび「至近距離で撃つなよ」

小河「ゲームだからいいんだよ。それに、敵兵の死体をM37で撃ちまくったら全身血まみれになったぞ」

ドラ「うわわわわわわわ・・・ゲームでもDSだあああああ  
あ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

小河「俺はDSじゃねえよ」

溺杉「僕にはみんなDSだよ・・・」

静香「よしっ！ドラえもん、違法道具を何か出してくれ」

ドラ「分かった！タラリタッタター違法道具No.4 S Mプレイ装置」そして、お馴染み違法道具No.1ロボット製造機」

スネ「S Mプレイ装置ってのは何？」

ドラ「SかMかモードを選んでロボットとS Mプレイをするんだよ。まあ、今回はロボットがSモードだからMの人はこっちに来て、まあ、溺杉は強制的にS Mプレイ装置だけどね」

溺杉「そんな」

ドラ「ゴタゴタ言っな！お前に決定権はねえんだよっ！」





え・・・そんなズルくない？

国道3号線マツク跡

静香「で、ススキケ原の二の舞か？」

「ヤリウニソ」ラド

小河「話の展開でこうなったんだよ、こうしないと第2部成り立たないし」

のび「まあ、悪いのは小河とアンブレラの連中だよな」

ジャ「そういうことになるな」

小河「で？何で俺が悪いやつになってんだ？」

全員「作者だから！」

小河「お前らな」

溺杉「あの、お取り込み中悪いけどバカ作者の後ろに……」

小河「誰がバカだよコノヤロー！後ろに何がいるんだ・・・よ？」

後ろにいたのはハンター（久しぶりに登場の緑のアレ）であった。

全員「ハンター……！」

!!!!L

小河「ヤベツ！逃げ・・・」

ガ  
シ  
ユ  
ツ  
！

小河「痛っ！何しやがるコノヤロー！」

右腕にハンターの引っ掻き攻撃がかすった。

ドラ「おいっ！大丈夫かよ！ちょっと待てよ……ハンター」体

にTウイルス・・・」

のび「と、いうことは・・・」

ドラ「よし、このアホ作者は死刑だ」

小河「バーカなんでだよ」

ドラ「放っておくとゾンビになるからだ」

小河「だーかーらー人の話を聞けや」

静香「どうということだ」

小河「お前らのいた保健室に着く前のことだ」

3日前 ススキケ原

小河「あーあ、練馬に入れたのはいいけどあのバカどものいる学校は遠いもんな、どっかバイクでも落ちてねえかな」

そこで見つけたのが保健室に突っ込むのに使ったKLX125だった

それで、そこに見事にゾンビとかハンターが居たわけよ

でもしょうがねえから弟から勝手に借りてきたエアガンのH&K MP5 A5で強行突破。

ゾンビには少しは効いてたけどハンターは無効

幸いハンターは1匹しか居なかったから何とかいけねえかと思つて突っ込んでいった

それで、さっきの引っ掻き攻撃がきて左足をかすった

そしたらなんか普通出来ないような必殺技が出来た・・・

現在 鹿児島市国道3号線 マック跡

小河「と、言う訳だ」

のび「信用できん」

安雄「どういふのだよ」

ドラ「絶対言い訳だろ」

静香「嘘をつくな」

ジャ「俺は信じないぞ」

鳥柴「あの～ゾンビがたくさんやってきているのですが・・・」

小河「あーあ、この信用しないバカどもに見せてやるか、お前ら攻撃禁止な」

骨川「一体何をする気だ・・・」

小河「行くぜええ！！！！！！喰らえ！ファイヤースラッシャー！！！！！！！！！！！！！！」

全員「何じゃそりやー！！！！！！」

すると、小河の足元から火が出てきて目の前に居たゾンビ達を焼き払ってしまった

ドラ「あのバカあんなことできたのか・・・」

のび「あいつは本当に人間か？」

静香「最強だな・・・」

おどろく信じなかった人たち

小河「本当だったろ」

のび「そんな能力があるんだったらなんで今まで使わなかったん



だ？」

小河「ああ、アレはT・ウィルスを持った生物に直接攻撃されてから今のところ1時間以内に1発しか出来ないからな」

ドラ「すごいけど滅多に使えないってことだな」

小河「そういうこと」

安雄「それとゾンビ化しないのと関係あるのか？」

小河「多分無い、けどもともとT・ウィルスの抗体でも俺は持つてるんじゃないの？」

静香「イマイチ分からん」

小河「分かんなくていいよ」

16時50分

次回へ・・・

今度はお前かっ！

あいかわらず第2話から場所移動せず国道3号線マック跡

小河「お前ら本当移動をしなくていいのか？」

のび「そーだよな、移動しないといけないよな」

鳥柴「まず、隠れ家的なものを探しませんか？」

小河「いいところあるぞ」

スネ「どこだ！」

小河「国道沿いのトンネル」

ドラ「トンネルねえ」

と、いうわけで国道10号線 鳥越トンネル

溺杉「古そうなトンネルだな・・・」

小河「少し古いよ、たしか昭和35年完成で、入口の何とかトンネルのプレートが鳥越とりごえ隋道すいどうって書いてあるし」

安雄「プレートはどうでもいい」

小河「余計な情報でしたとさ」

ドラ「トンネルを隠れ外にするのか・・・あっ！そうだあの秘密基地ペーパーを使えばいいんだ！」

小河「そんな道具あったっけ？」

ドラ「名前を忘れた」

小河「そういうことか」

ドラ「とりあえず張ろう」

安雄「その前に俺のS2000を出せ」

ドラ「わかった、みんなのくるまも出そう」

スネ「僕だけ車が無い・・・」

小河「持ってくるから待ってろ」

そして、スネ才用の持ってきたのは、トヨタのハリアー

スネ「これってパジェロ？」

安雄&小河「どこがパジェロだよボケー！！！！」

スネ「いや、それっぽい4WDの車だったからさあ」

小河「似ても似つかねえよ、パジェロは三菱でハリアーはトヨタだぞ、ぜんぜんっ違う！」

スネ「はい・・・」

ドラ「すいませ〜ん、スーパーに食料を盗りに行ったらススキケ原のやつよりはかなり小さいけどこのスーパーにもいたよ・・・」

鳥柴「一家に一台タイラントですか、世も末ですね」

小河「それって、無理の無いバイオ？のリスシングスキーのセリフじゃねえかちよつと違うけど」

鳥柴「悪かったですね、私が出ていたのも無理の無いバイオ？だったのじゃないです」

のび「よし、こういうときは俺の出番だ」

ジャ「???」

静香「何をするんだ？」

のび「まあまあ、見てろって」

そいで、ダイエーに移動

ドラ「ほら、タイラント」

のび「よし、俺様が倒してやる」

骨川「本当にできるのか？」

のび「いくぜええええ！！！！のび太ハリケーンクラッシャー！！死ね！タイラント！」

のび太はのび太ハリケーンクラッシャーという名の必殺技でタイ

ラントに突っ込む。

そして、タイラントに激突！

見事にタイラントの腹に穴を開け、タイラントを倒した。

のび「どんなもんだい！」

全員「スゲエ」

ドラ「この調子で他のも頼む！」

のび「しょうがねえなあ」

そして、のび太はのび太ハリケーンクラッシャーで60匹ほどのタイラントを倒した。

17時49分

次回へ・・・

アンブレラ鹿児島支部はどこだ！そして誰かを処罰・・・

小河「アンブレラ鹿児島支部ってどこだ？」

のび「な、

ドラ「な、

安雄「な、

ジャ「な、

静香「な、

小河「な、

鳥柴「な、

骨川「な、

スネ「な、

溺杉「な、

のび「な、

ドラ「な、

安雄「な、

ジャ「な、

静香「な、

小河「な、

鳥柴「な、

骨川「な、

スネ「な、

溺杉「な、

のび「な、

ドラ「な、

安雄「な、

ジャ「な、

静香「な、

小河「な、

鳥柴「な、」

骨川「な、」

スネ「な、」

溺杉「な、」

のびな、

ドラ「な、」

安雄「な、」

「じゃ、な、」

静香「な、」

小河「な、」

鳥柴「な、」

骨川「な、」

スネ「な、」

溺杉「な、」

のび「なんだってー!!!!!!」

小河「長すぎるわボケッ！」

のび「ボケじゃねえよ！」

小河「てめえ、ぶつ殺すぞ！」

のび「うめんなさうい……!」

小河「そして、溺杉、お前は死刑、ドラえもんは水中1分沈めるの刑」

溺杉&ドラ「何でだ」

小河「これを見る」

第3話の一部

静香「で、ススキケ原の二の舞か？」

「ア、リ、ウ、ニ、ウ、キ、」リ、デ

小河「話の展開でこうなったんだよ、こうしないと第2部成り立たないし」

のび「まあ、悪いのは小河とアンブレラの連中だよな」

ジャ「そついうことになるな」

小河「で？何で俺が悪いやつになってんだ？」

全員「作者だから！」

小河「お前らな」

溺杉「あの、お取り込み中悪いけどバカ作者の後ろに……」

小河「誰がバカだよコノヤロー！後ろに何がいるんだ・・・よ？」

後ろにいたのはハンター（久しぶりに登場の緑のアレ）であった。

**全員「ハンター……！」**

!!!!

小河「ヤベツ！逃げ・・・」

ガ  
シ  
ユ  
ツ  
！

小河「痛っ！何しやがるコノヤロー！」

右腕にハンターの引つ掻き攻撃がかすった。

ドラ「おいっ！大丈夫かよ！ちよつと待てよ．．．ハンターⅡ体に  
にＴウイルス．．．」

「のびや、こいこいね・・・」

ドラ「よし、このアホ作者は死刑だ」

小河「バーカなんでだよ」

小河「この途中に問題がある」

ドラ＆溺杉「どこが？」

小河「ここが問題、勘のいい読者は分かっていると思うけど」

#### 溺杉の問題点

溺杉「あの～お取り込み中悪いけどバカ作者の後ろに・・・」

#### ここが問題点

#### ドラえもんの問題点

ドラ「よし、このアホ作者は死刑だ」

#### ここが問題点

小河「ここだ」

2人「あ・・・」

小河「そういうわけだ、と、いうわけでRPG-7を貸せ」

静香「壊すなよ」

小河「ドラえもんは避難しろよ」

ドラ「分かった」

溺杉「いっつも僕ばかりひどい目に遭うんだ」

小河「あばよ、疫病神」





小河「スタート地点は県道17号線有料道路指宿スカイラインの  
瀬娃ICで、ゴールは九州自動車道の鹿児島北ICだ！」

のび「有料道路ってことは終点到料金所があるはずだけど・・・」

小河「俺は一度コースを走っていくからその時に料金所のバーは  
折っておく」

安雄「それに俺ら道わからねえよ」

小河「じゃあ俺について来い」

ドラ「俺らはその間にアンブレラ鹿児島支部を探しておくから」

小河「分かった、じゃあいくぞ」

安雄&のび「わかった」

そして、3人は自分の車に乗り込み瀬娃ICへ向かった

17時39分

次回へ・・・

## 指宿スカイラインで公道レース！

九州自動車道 鹿児島北IC

小河「お前ら俺をスタート地点まで抜くなよ」

2人「わーってるよ」

小河「いくぜ」

のび「なんかやる気かな」

小河「うるさい」

機械「通行券をおとり下さい」

小河「誰が取るかい！」

バンッ！

機械「つ、図うごうげんヴおどりぐださ……」

のび「壊れた……」

安雄「壊していいのか？」

小河「いいんだよ、どうせ指宿スカイラインの山田ICと谷山I

Cでも壊すから」

安雄「そういう問題か？」

小河「そういう問題」

指宿スカイライン山田料金所（山田IC）

機械「料金を……」

バンッ！

ボガーン！

元タインテRに乗ってたグレネードランチャーで機械をバーごと  
上下線とも吹っ飛ばす。

安雄「またまた強引だな・・・」

小河「うるさい」

指宿スカイライン中山IC先 某ガソリンスタンド

小河「一応ここでガソリン入れとけよ」

安雄「そうだな」

のび「あんまり入ってないし」

小河「そうだろ・・・（慌）」

安雄「何で慌てるんだ？」

小河「え？気にすんな」

安雄「なんでもないなら気にしないけど・・・」

小河（もうガソリンが１リッターも入ってないなんていえねえよ）

ちなみにインテRの燃費は13.5km/L（10.15モード）

小河「ここ廃屋の給油口が2個しかねえじゃん」

のび「廃屋の給油口が2個しかないってどういう意味？」

小河「間違えてるのを察しろボケ」

のび「・・・」

このときの廃屋・・・じゃなくてハイオクの値段は1L145円

全員で128L入れたので、もちろん料金は払わないが、全員分  
で18560円。

安雄「18560円も払えねえよ」  
のび「全くだもう」

指宿スカイライン谷山IC

小河「えーっと、この緑の線の上を走ればいいんだよな」

谷山ICはややこしい構造なのだ。

知らない2人は・・・

走行車線

有県県

料道道

道22

路11

指77

宿号号

ス線線

力産産

イ業業

ラ道道

イ路路

ン

小の安

河び雄

小河「あのバカども違ふところに行くぞ！なんか無かつたっけ・・・」

・ あった！メガホンだ！」

のび「ん？小河のやつメガホンもって窓開けて何すんだ？」

小河「のび太と安雄！今すぐ減速して俺の走ってる車線に入れ！  
じゃないと違うところに行くぞ！」

のび&安雄「なんだと~~~~~」

小河「だから今すぐ俺の後ろに來い！」

のび&安雄「そうするか」

そして、のび太は余裕で、安雄はギリギリセーフで指宿スカイライン車線に入れた。

走行車線

有県県  
料道道  
道22  
路11  
指77  
宿号号  
ス線線  
力産産  
イ業業  
ラ道道  
イ路路  
ン  
小河の  
の

び

雄 安

安雄「セーフ」

小河「本当、何なんでこんな複雑に作ったんだ鹿児島県は」

有料道路だけど指宿スカイラインは県道なのである。（鹿児島県道17号線）

錫山ICの500メートル前

溺杉「クソツたれ・・・俺、裏切ってアンブレラに入ろうかな・・・」

そんなことを言っていると、まだレースは始まっていないが、お遊びヒルクライムが開催されていた。

1位 のび太

2位 安雄

3位 小河

この順位は、ヒルクライムだから。

パワー順 上は大きい、下は小さい。

1位 インプレッサ (325ps)  
2位 S2000 (297ps)  
3位 インテグラタイプR (252ps)

溺杉「嫌な、予感」

予想的中でのび太は何の躊躇も無く溺杉を撥ねた。

溺杉「やっぱりね」

もちろん、後続の2台にも轢かれる。

溺杉「うつつ、マジで裏切ろうかな・・・」

10分後

指宿スカイライン錫山IC先

安雄「おりゃあ！ブレーキングドリフト！」

ギャギャギャギャギャ

見事にオレンジの追い越し禁止のセンターラインの上にタイヤ痕がついた。

小河「俺は地味に普通にグリップでコーナーを曲がる・・・と、  
いうかFFはドリフトはできねえか(?)」

のび「必殺！サイドブレーキコーナリング！」



ガキッ！ギャギャギャギャギャ

必殺と付いているが実際はただのサイドブレーキを引いてリアタイヤをロックしてスライドさせているだけである。

のび「うるさいぞナレーター！」

すみません・・・

小河「あ、あんな所でリアルドラえもんが車に轢かれて死んでる」

リアルドラえもんとはただの狸である。

そして、川辺ICC

何も無かった。

知覧ICC

ゾンビが2、3匹いたので轢く。

スタート地点南九州市顚娃ICC

小河「えーっと、いろいろと不利な点があるので、スタート地点は全員ばらばらな」

安雄「分かった、自分だけズルしようと・・・」

バキッ！

安雄「ギャフッ！」

小河「てめえは作者様に楯突くのか？ああ？」

安雄「ヒイヒイヒイ！ごめんなさい」

小河「よろしい」

のび（相変わらずドSだな）

小河「のび太も何か言ったか？」

のび「言っていないであります隊長殿！」

小河「何の隊長だよ」

のび「知らん」

小河「まあいい、とりあえずスタート地点は、のび太が頼娃IC、安雄が頼娃ICから500m先、俺が頼娃ICから1.5km先からスタートだ」

のび「それってズルくねえか？」

小河「ずるくない、パワーの差が結構あるし、ここはダウンヒルとヒルクライムの複合コースだし」

安雄「まあ、ヒルクライムはパワーで勝てるからな」

小河「と、言う訳で車のパワーが多い順に遠くしてある」

のび「そういうことか」

小河「と、言う訳でスタート地点に移動しやがればenasが！」  
のび&安雄「お前が早く行けよ、お前が一番近いところからスタートなんだから」

小河「そうだった、じゃあ行っとくぜ」

2人「さっさと行けや」

小河「まったく、ボケどもめ、後で覚えてろ」

頼娃ICから1.5km先？

小河「着いたぜ、じゃあスタートするぞ」

安雄「へいへい」

のび「了解」

小河「スターーーーーー！」

のび「今回は複合コースだから安雄には勝てるな」

安雄「俺の得意なコーナーばかりのコースだからな、絶対勝つぞ！」

小河「ヘッヘッヘッ！1.5kmって言うておいたけど本当は5?ぐらい進んでるんだ、負けねえぞ」

のび「おっ！もう安雄発見」

今はヒルクライムである。

安雄「ヤベエ、もうnのび太が追いついてきたぞ」  
のび「フツ、今のうちに抜くぞ！悪く思っなよ！」

のび太は強引に安雄を抜きにかかる。

しかし安雄も抜かれたくないなので必死に抵抗<sup>ブロック</sup>する。

安雄「抜かれてたまるか！」

のび「チッ！しぶといな、だが、後ろからあおっていればそのうち集中力を切らすだろう、そこまでねばってやる！」

小河「2人とも追いついてこねえなあ」

インチキをしたセコイ作者。

小河「ナレーター、言っていないことと悪いことの区別をしろ」

すみません・・・

本日2度目のナレーターのすみません。

小河「あゝ全然追いついてこねえ、遅いなあ」

スタート地点から4?地点

のび「さっさとどけよ!」

安雄「くそ、早く下りにならねえのか?」

延々と続く上り坂、もちろん、ここはパワーの差が出るので安雄にはかなり不利である。

一方のび太は余裕で煽っている。

のび「ほらほら、さっさと進まないと抜くぞ」

完璧に余裕な態度である。

安雄「チクショー、のび太に煽られるのは屈辱だ! 下りがこないかな本当!」

知覧IC

まだ登る

のび「チャンス!」

のび太はアクセル全開で安雄を抜いていった。

ICだったからそこだけ若干広がったのである。

のび「フハハハハハハハハ！悪く思うなよ安雄！」

安雄「チクショー抜かれちまった！」

しかし、そこから約4？先

安雄はチラッとカーナビを見る

カーナビの道路に書いてある物は木床峠。

安雄「フッフッフッフッフ、下りになれば俺のもんだ！」

そのころのび太

のび「下りは何か嫌な予感がする・・・」

のび太はバックミラーをチラリと見る。

すると、見事にコーナーをドリフトで抜けていく安雄のS2000が写っていた。

のび「ゲッ！安雄の奴もう追いついてきてるのかよ！」

安雄「はっはっはっはっは、これでのび太も終わりだあああああああああ！！！！！！！！」

のび「クソッ！どうすりゃあいいんだ！」

川辺ICの少し前のヘアピンコーナー

のび「わっ！」

のび太はあまりにもオーバースピードで進入してガードレールスレスレを走っていく。

安雄「もらった！」

その横を安雄は悠々と抜いていく。

のび「チクショー！」

そして、のび太のインプレッサはそのままスピンして一旦停止。

のび「・・・もう絶望的だな・・・」

川辺IC 2 km 先

小河「まだ追いついてこない」

しかし、そう思っているとどこからか物凄いスキル音がした。

小河「もしや、安雄のやろうか・・・」

大当たりであった。

安雄が追いついてきた。

しかも登り坂であった。

小河「タイミングがかなり悪い！」

安雄「みーッけた」

小河「ヤバイヤバイヤバイ!!!」

しかし、丁度いいところに下り坂。

小河「ナイスタイミング！これで何とか行けるぞ！」

安雄「下りかゝまたチャンスを失った」

道路の端に立っている標識を見る2人

小河「ん？県道17号線鹿児島市錫山・・・えっ！もう錫山か！  
てことはもう谷山までは下りだな！」

安雄「鹿児島市錫山・・・どこだよ」

安雄はカーナビを見る。

安雄「よしっ！もうすぐICか！そこで抜いてやる！」

安雄は抜く気満々である。

小河「錫山ICの先はずっと下りのはずだけど、登坂車線がある  
んだよね」

錫山IC

安雄「もらった!!!!!!」

安雄はIC出口によってインターと並ぶ

小河「その手が通用するか！」

インターも出口側に幅寄せして抜けないようにする。

そして、また狭くなる。

安雄「あぶねえ！」

安雄は危機一髪でなんとかガードレールに衝突することは避けたがかなりのスピードダウンをしてしまった。

安雄「チッ！後はもう谷山ICの先の2車線のところでどうにかしないと！」

のび太は未だに川辺ICから1・5km地点である。

のび「終わったな、俺」

谷山IC

小河「間違ったら最後だぞ、俺」

と、独り言を言いながら元・料金所を通過する。

そして、九州自動車道の案内どおりに移動し、なんとか本線に移動できた。

小河「よし、間違わずに行けたぞ」

そして安雄

安雄「どういくんた？ここは」



全く分からないようである。

安雄「こつちか？」

適当にいくと信号が見えてきた。

安雄「ヤベッ！こつちじゃねえ！」

大急ぎでバックする。

すると、見事にのび太がやってきた。

のび「わあああつわわわわわ！！！！！！！！！！」

安雄「ぶつけるなよ！のび太！」

と、言いつつも安雄はバックを続ける。

ガシャーン！！！！

さて問題です、ここでは一体どうなったでしょう。

1、見事にぶつかり両方とも車が大破

2、のび太が避けて横の壁にぶつかり、のび太のインプレスだけ大破

3、かすっただけ

さてどれでしょう。







答えは、2の、のび太が避けて横の壁にぶつかり、のび太のイン  
プレスサだけ大破でした！  
わかりましたか？

まあいいや、それでは本編へ！

[illegible]

どこかで聞いた話だけどエアバックにあたると首が痛いらしい。

安雄「ふう、危なかったじゃあ、おれはさっさと行くか」

のび「ちよつと待てー！俺を助けてから行けよ！」

安雄はのび太のことを放っておいて先に行ってしまった。

「じゃあ、僕がのび太君を助けて先に逝かせてあげようか」

「のび、何だと！誰だお前！」

のび太は謎の人物を見る。

「お、お前は……」

「正体を見られたか、じゃあ、死んでもらう」

のび「ちよつと待てよ、何でお前が……」

「黙れ！」

グシャッ！

のび「ギャアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア！」

! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! !

謎の人物はのび太を刀で斬りつけた。

「まず、一人」

19時3分

のび太を斬った謎の人物は一体誰だ！

次回へ・・・

公道レース決着！そしてのび太を斬った犯人

鹿児島IC

小河「よしっ！あと1つでゴールだ！」

ちなみに安雄はまだ山田ICで、のび太は・・・

安雄「あゝ！追いつかねえ！クソッ！のび太の奴め！」

安雄はのび太が今どんな状況なのかを知らないのでこんなことを言う。

そして、ゴールの鹿児島北IC1？前

安雄「追いついたぞ！」

小河「ヤベエ！」

ちなみにスピードは、

インター 190？/h

S2000 195？/h

小河「チクショー！もう一か八かだ！どうにでもなれ！」

安雄「あっ！」

安雄は丁度そこに居たゾンビを撥ねてしまいスピードダウン



安雄「チクショー！なんでこんな時にゾンビが！」

よりによってゴール100m前

安雄「もう駄目だな」

小河「よしっ！俺は運がいい！」

そして、ゴール。

勝ったのは小河である。

小河「ヨッシャ！勝ったぞ」

安雄「チクシヨ！あんなところにゾンビさえ居なければ・・・」

小河「お前の運が悪かったんだよ！」

安雄「ウゼエ」

小河「なんか言ったか？」

安雄「何も言ってねえよ！」

小河「ならいいけどさ、と、いつかのび太は？」

安雄「谷山ICで事故った」

小河「じゃあ救出に行くか」

そして、谷山IC

そこで2人が見た光景は、のび太が血だらけで血の海に横たわっているところであった。

小河「おい！のび太！大丈夫か！おいっ！」

のび「あ・・・お前・・・か・・・溺・・・杉が・・・」

バタッ！

そのままのび太は意識を失った。

小河「おい！のび太！溺杉がどうかしたのか！おいっ！」

安雄「のび太は大丈夫なのか？」

小河「ヤベエかもな……安雄！お前ケータイ持ってるか？」

安雄「えっ？一応持つてるけど」

小河「じゃあ貸せっ！」

安雄「どうするんだよ！」

小河「ドラちゃんに電話するんだよ！ドラちゃんならどうにかしてくれるだろ！」

そこに、グッドタイミングで・・・

ドラ「ドラちゃんじゃねえわボケ――！！！！！」

!!!!

小河「うげーギブギブ！」

129・3?の巨体がのしかかった。

ドラ「誰が129・3?の巨体だあ!」

安雄「誰に言ってるんだよ」

「ドラ、さあ？」

丁度やってきたのはドラえもん。と静香であつた。

静香「の……び太？嘘だろ……何で？」

安雄「どうしたんだよ」

静香「ちょっと待て、これは夢なんだのび太のバカがやられる訳が無いんだ」

小河「残念ながらこれは現実だ」

静香「嘘・・・だ」

バタッ！

静香は気絶をしたようだ。

余程のび太がやられたのがショックだったのであろう。

ドラ「コレはマズいな、早くちゃんとした病院に運ばないと・・・」  
小河「ちょっと待てよ・・・」

九州地図を見る小河

安雄「何で九州地図？鹿児島県地図でもいいじゃんか」

小河「うるせえなあ、家に九州地図しかなかったんだよ」

1分後

小河「一番近そうなのがJRの鹿児島中央駅の近くの市立病院だ」  
ドラ「じゃあそこに運ぼう！」

15分後 鹿児島市立病院

小河「大丈夫かな本当・・・」

安雄「どうだろうな・・・」

静香「頼むから死なないでくれ、これ以上仲間が少なくなっ  
て欲しくないんだ！」

安雄「静香ちゃん・・・」

30分後

ジャ「のび太は大丈夫なのか！」

小河「まだわかんねえ、今ドラえもんが手術をしてるところだ」

スネ「ドラえもんって手術ができたんだ・・・」

小河「ドラえもんは特製品でそういう便利な機能もインプットされてるらしい」

ジャ&スネ「へえ」

それから2時間後 22時13分

ドラ「みんな！何とか無事に終わったよ！」

全員「本当か！」

ドラ「本当」

全員「よかった・・・」

ドタッ！

全員安心してそのまま寝てしまった。

そして、次の日8月21日 6時59分

小河「うーん、そうだ！のび太は！」

のび「この通りピンピンしてるよ」

小河「そうか、よかった。　そうだ、お前を斬った犯人は誰なんだ！」

のび「それは、みんなが起きてから話すよ」

そして、7時30分

全員起床。

そして、のび太からののはなしを聞く。

そこには、ありえない・・・いや、信じたくないことがあった。

それは・・・

のび太を刀で斬った犯人が溺杉だったということだった。

スネ「溺杉が裏切った？」

ジャ「のび太！そんな冗談をいうとぶっ飛ばすぞ！」

のび「事実なんだからしょうがないじゃないか！　現にここに溺杉はいないだろ！」

ジャ「たしかにそうだ・・・」

安雄「でも、何で溺杉が・・・」

全員信じられないという気持ちだった。

7時52分

次回へ・・・

溺杉は敵・・・

鹿児島市立病院

小河「・・・」

のび「どうした小河」

小河「zzz」

のび「寝てたのかよ」

安雄「そういえば夜中の2時ごろにドラえもん車に乗ってどこかに行ってたぞ」

のび「何やってたんだろ？」

安雄「さあ？帰ってきた時にはやけに車の音が大きかったけどなのび「ドラえもん、夜中の2時ごろに小河とどこに行ってたの？」

ドラ「おいおい、お前作者を呼び捨てにしているのかよ」

のび「いいんだよ、あのアホ作者は」

小河「のび太、誰がアホ作者だと？」

のび「起きてたの？」

小河「目が覚めた、誰がアホだと？」

のび「ごめんなさい！お許してくださいませ」

小河「何かすごい謝り方だな・・・」

のび「まあいいじゃないの」

鳥柴「みなさん！下を見てください！」

静香「どうしたんですか鳥柴さん」

鳥柴「いや、下に溺杉さんのような人がタイラントを大量に引き連れてこちらに向かっています」

ジャ「なんだって〜！」

一応下を見る。

鳥柴の言つとおり大量のタイラントを引き連れた溺杉の姿があった。

のび「あのヤロー！本気みたいだな」

小河「Ｔ・ウィルスのビン詰めみたいなもの大量にねえか？」

ドラ「あるよ、使い方は適当なジュースに混ぜて飲むって書いてある」

小河「それならいいな」

のび「俺も行くか」

ジャ「のび太！お前はまだ大人しくして置いた方がいいんじゃないのか？」

のび「大丈夫、ドラえもんはプロ並みの腕だからもう全快だよ！」

ドラ「うんうん、でも、無理はすんじゃないぞ」

のび「分かった！」

小河「じゃあ行くぜ、のび太」

のび「そうだな、一応ドラえもん達はここで待機しておいて、ヤバそうになったら連絡する」

ドラ「分かった！」

鹿児島県道20号線

小河「きやがったな裏切り者！」

溺杉「裏切り者だと？フン、こんなだったら裏切って当たり前だ！」

のび「どういうことだ！」

溺杉「いままでお前らは俺に酷い仕打ちをしてきただろう！」

小河&のび「あ・・・」

のび太と小河の回想







そして、静香は笑顔で溺杉にこう言った。

静香「殺していい？」

溺杉「静香ちゃん？そこは笑顔で言うところじゃないよ」

静香「うるさい、死ね」

そして、H & a m p ; K    M P 5    A 5 を構えた。

静香「みなさーん、溺杉君を蜂の巣にしていいいですか？」

みんな「いいです」

静香「よし、死刑決定だ」

溺杉「みんなヒドいや~~~~~~~~」

ダダダダダダアッダダダダダッダダダダダダダダダダ  
ダダダ（発砲音）

溺杉「ギャアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
アアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
アアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
アアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア  
アアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア

[illegible]

小川「悲惨だな溺杉、いつものことだけど」  
のび「そうだな」

鳥柴「まったくです」

第1部  
49話

ドラえもんはAK-47を乱射する。



ドラえもんの発射した弾丸の命中した数。

200発中

のび太×1

静香×1

鳥柴×0

ジャイアン×7

溺杉×179

溺杉「何で僕はっかりこんな・・・」

バタッ！

溺杉は倒れた

のび「溺杉！おい！大丈夫・・・じゃなくてもいいけどさ」  
静香「溺杉なんかどうでもいいのよ、あんな疫病神」

ジャ「同じく」

鳥柴「上の3つに同じくです」

ドラ「僕もみんなに同じく」

のび「あれ？ドラえもん、怒りが収まったの？」

ドラ「うん、溺杉の腹を銃で打ち抜いたらスッキリしてさあ」

のび「そうか、僕も溺杉が打ち抜かれるのを見てたらスッキリしたよ」

静香「同じく」

鳥柴「私もです」

ジャ「俺もだぜ」

ドラ「みんなスッキリしたんだ、よかった、よかった」

溺杉

溺杉は心の中でこう思った。

## 第1部 50話

小河「ストレス解消法って何？」

ドラ「今から作るよ」

のび「溺杉を運ぶから手伝って」

みんな「へーい」

溺杉「もしかして・・・」

ドラ「溺杉を放り込め！」

みんな「せーの！ほいっ！」

溺杉「いやだ~~~~~」

ポイツ！









溺杉は飛び降りた。

溺杉「アベシイイオ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

ジャ「溺杉！」

ジャイアンは車で溺杉に近寄る。

そして、

ドンッ！（溺杉を撥ねた音）

溺杉を撥ねた。

溺杉「あ~~~~~れ~~~~~」

ジャ「あーあ、どっかに飛んで逝っちゃった」

そして、着地地点練馬IC付近

溺杉「誰か助けてくれえ~~~~~」

ちょうどそこに、作者の運転するインターがやってきた。

溺杉「また撥ねられる~~~~~」

溺杉の予想は的中した。

ボンッ！

小河「ん？何かはねたような気がするけどなんか撥ねたか？のび太」

のび「多分溺杉」

小河「何だ、溺杉か。ならどうでもいいな」

そして溺杉。

溺杉「お助け~~~~~」

ドガン！

見事にススキケ原から出られないようにする壁に激突。

そして、高速道路上の壁に半径1・5mの大穴が開いた。

小河「おっ！でかしたぞ溺杉！」

安雄「肝心な溺杉はどこに行った？」

小河「あっ！いたぞ」

溺杉は高速道路に血まみれで倒れていた。

小河「生きてるか」

安雄「生きて無くてもいいけどな」

オイオイそれは無いだろ！

溺杉「ひどい・や」

溺杉は完全に意識を失った。

## 第1部 52話

のび「おわっ！なんじゃこりゃあ！」

のび太は校庭で思わず叫んだ。

小河「何じゃこりやあつてねえ」

鳥柴「どう見ても焼肉パーティーですよね」

ス吉「全くだ」

のび「いや、こんなところで焼肉なんかしてると思わなかったから」

小河「誰だってこんな状況で焼肉なんかしてる馬鹿がいるとは思わないからな」

溺杉「て、ことは、その3人は馬鹿ってこと?」

プチッ!

3人は切れた。

3人「溺杉、ちよつとこつちに来い」

溺杉「???????まあいいけど」

溺杉はまんまと罠に引っ掛かった。

3人「死ねやこのクソボケがああああああああああああ  
あ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

溺杉「はめられたあああああああああああああああああ  
あああああああああああああああああああああああ

!!!!!!!!!!!!!!

[illegible]

69

溺杉「ハア、またか」

ウィーンガシャン、ウィーンガシャン、ウィーンガシャン、ウィーンガシャン

[illegible]

またまた溺杉はロボットを大量生産された。

そして、**全員（溺杉以外）**が銃を構えた。





溺杉「僕は死んでもいいってどういふこと?」

小河「そういうことだよ！ボケナス！」

溺杉「酷いや・・・」

小河「タイラントを倒す道具が何かなかったか……あつた！」

溺杉「何が」

小河「タラリタツター 違法改造空気砲 & 違法改造熱線銃」

溺杉「違法改造つて、駄目でしょ」

小河「黙々とけサンドバッグ溺杉」

溺杉はサンドバッグ呼ばわり。

溺杉「酷いや・・・」

第1部  
58話

小河「と、いうわけで誰かエアガンを貸してくれ」

ドラ「何に使うんだ？」

小河「ゴブリゴブリゴブリ」

ドラ、「そういふことが」

小河「そうかい、や」

ドラ「それなら喜んで貸すよ」

小河「ありがとう、じゃあ全員ゴーグルをして」

全員「したよ」

[illegible]

え え え え え え え え え え え え え え え  
え え え え え え え え え え え え え え え  
え え え え え え え え え え え え え え え  
え え え え え え え え え え え え え え え

[illegible]

!!!!!!

ジャ「よしっ！俺たちもやるぞ！」

溺杉と鳥柴以外「才」

溺杉「何だつてんだよ全く」

$\text{ダダダダダダダダダダダダダダダダダダダダダダダダ} \times 8$

溺杉「痛えよう」

第2部  
2話

小河「M37・・・12ゲージショットガンか・・・これたしかメタルギアソリッド3（MGS3）であつたような気がする・・・これで敵兵を至近距離で撃つたらけっこう吹っ飛んだような気がする」

のび「至近距離で撃つなよ」

小河「ゲームだからいいんだよ。それに、敵兵の死体をM37で撃ちまくったら全身血まみれになったぞ」

ドラ「うわわわわわわわわ・ ・ ・ゲームでもDSだあああああ  
あ！！！！！！！！！！！！！！！！！！！」

小河「俺はドSじゃねえよ」

溺杉「僕にはみんなドSだよ……」

静香「よしっ！ドラえもん、違法道具を何か出してくれ」

ドラ「分かった！タラリタッター違法道具No.4 SMPプレイ装置として、お馴染み違法道具No.1ロボット製造機」

スネ「S Mプレイ装置ってのは何？」

ドラ「SかMかモードを選んでロボットとSMプレイをするんだよ。まあ、今回はロボットがSモードだからMの人はこっちに来て、まあ、溺杉は強制的にSMプレイ装置だけだね」

溺杉「そんな？」

ドラ「ゴタゴタ言っな！お前に決定権はねえんだよっ！」

ポイツ！（溺杉をロボット製造機の中へ・・・）

溺杉「ギャー  
嗚呼嗚呼嗚呼あアアアアアアアアアア

[illegible]

ウィーンガシャン！、ウィーンガシャン！、ウィーンガシャン！

溺杉ロボットが1万体制造された。

ドラ「溺杉はそのままSMプレイ装置に！」  
ジャ「了解！」

溺杉「嫌だあああああああ！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！」

それで、どっちに行ったか。

# S M プレイ装置

スネオ、**溺杉（強制）**

溺杉ロボツト破壊

小河、のび太、ドラえもん、スネ吉、静香、ジャイアン、鳥柴、安雄

# SMプレイ装置

スネ「イテッ！気持ちいいいいいいいい！！！！！！！！」





そんなことを言っていると、まだレースは始まっていないが、お遊びヒルクライムが開催されていた。

1位 のび太

2位 安雄

3位 小河

この順位は、ヒルクライムだから。

パワー順 上は大きい、下は小さい。

1位 インプレッサ (325ps)

2位 S2000 (297ps)

3位 インテグラタイプR (252ps)

溺杉「嫌な、予感」

予想的中でのび太は何の躊躇<sup>ちゅうちゅう</sup>も無く溺杉を撥<sup>は</sup>ねた。

溺杉「やっぱりね」

もちろん、後続の2台にも轢<sup>は</sup>かれる。

溺杉「うつつ、マジで裏切ろうかな・・・」

回想終了

のび&amp;amp;小河「あ・・・」

溺杉「お前らはこの天才少年の出木杉英才様にこんなに酷い仕打ちをしたんだぞ！」

小河「天才少年ってお前はナルシストか！そしてお前は出木杉じゃない！溺杉だ！」

溺杉「このゝまだこの俺にはむかうか！」

小河「チツ！殺すしかないか！」

のび「やるのか？」

小河「ああ、」

のび「うりゃー！のび太トルネードスマッシャー！」

溺杉「当たるか・・・」

そこに・・・

小河「うりゃー！ファイヤースマッシャー！」

すかさずＴ・ウィルスを飲んだ小河が攻撃する。

溺杉「うッ！」

溺杉の右腕が焼けて無くなった。

そして、タイラントたちに突っ込んでいく。

タイ「ギャオオオオオオ！！！！！！！！！！」

のび「のび太ハリケーンクラッシャー！」

タイ「ギャオオオオオオ！！！！！！！！！！」



タイラント軍団全滅。

のび「溺杉、大人しく降参しろ！そうすれば助けてやる、いくらお前でも右腕を失ったら終わり・・・何！右腕が再生してるだど！」  
溺杉「フッフッフッフ、のび太俺を甘く見てもらっちゃあ困るな、今日の所は大人しく引き返してやるが今度は容赦しないからな！それじゃあ」

のび「溺杉！待て！」

溺杉は瞬間移動をして消えてしまった。

のび「溺杉・・・」

8時36分

次回へ・・・

溺杉は敵・・・（後書き）

回想シーンに出てくる話数は編集前のものです。

潜入！

鹿児島市立病院

ジャ「オイ！溺杉はどうなった！」

のび「まんまと逃げられた」

小河「あのヤロー瞬間移動して逃げやがった！」

ジャ「・・・そうか・・・」

小河「あと、今頃だけどアンブレラ鹿児島支部の場所が分かった」

小河とドラ以外「！！！！！！！！何処にあるんだ！！！！！！！！」

小河「え」と、国道225号線沿いのビル」

静香「メチャクチャな説明だな・・・」

小河「しょうがねえだろ！俺は説明とかするのは苦手なんだよ！」

実話です

のび「まあまあ、まず移動しようよ」

静香「それもそうだな、いくか」

んで、国道225号線沿いアンブレラ鹿児島支社

のび「ここか・・・」

スネ「それで、ここからどうするの？」

小河「一応今のところこのビルをくまなく探して、T・ウイルス関連の書類とか、ハンターとかゾンビなんかのB・O・Wのデータとかもいるかな・・・そして、溺杉が出てきたらピー祭りに上げていいからな」

特に

意味の無いピー

全員「ラジャー！」

小河「それで、このビルは9階建てだ、丁度俺達は9人だ、だから1人につき1階を探索してもらつ。いいか？」

全員「いいです」

小河「じゃあ、勝手に俺が決めた担当場所」

担当場所

のび太 7階

ドラえもん 9階

小河 8階

静香 4階

スネオ 3階

ジャイアン 6階

安雄 5階

鳥柴 2階

スネ吉 1階

小河「じゃあ、全員がんばれよ」

全員「やる気が抜けるな」

小河「黙れや、殺すぞ」

全員「こめんなさいです」

4階

静香「さうで、何か面白い部屋は・・・おっ！いい部屋見つけた！」

部屋名 B・O・W実験室

静香「ゾンビでもなんでもかかってきやがれ！」

出てきたもの・・・それは・・・

バイオゲラス（wikiのびハザサイトによると、コイツはのびハザオリジナルのB・O・Wらしい）

静香「何？このカメレオンのバケモノは！」

バイオゲラス

静香「そういうもんじゃねえ！」

ゲラ「、\*+、、\$'（）&amp;amp;amp;amp;amp;amp;amp;amp;amp;amp;amp;amp;amp;quot;:#\$%\$？  
\*|&amp;amp;amp;gt;、、」

静香「あん？何だって汽車？」

静香にはバイオゲラスの奇声が汽車と聞こえたらしい。

そうしていると、バイオゲラスが舌を伸ばし静香に攻撃した！



スネ「ええええええええええええええええ！！！！！！！！何で天井が降ってくるのさ！」

**シト下下下下下下下下下下**

スネ尾は2階分の瓦礫に埋もれた。

安雄は2階分落下

静香は1階落下

3人「痛てえよ全く」

静香「RPG-7なんか使わなければよかった」

9時11分

次回へ  
・  
・  
・

ひき逃げ事件・・・

アンブレラ鹿児島支社7F

のび「あゝあ、7Fには何も無いな」

7階には特にめばしい物は無かったようである。

のび「何をしようか・・・あ！こんなところに休憩室が！よし、サボろう」

サボるメガネザル。

のび「とりあえずみんなに連絡しよ」

連絡終了

8階



小河「これは・・・Ｔ－ウィルス貯蔵庫ってヤバイだろ」

そこに出るミニタイラント（身長７０ｃｍぐらい）

小河「うわっ！ちっちゃいタイラントだ！でも俺は容赦しないぜ！お前には美味しい鉛弾をぶち込んでやる！」

タイ「ウガー」

バン！

タイ「ガー」

バタ！

ミニタイラントは死んだ。

小河「もう何も無いからＴ－ウィルスを全部持っていくか・・・」

そして、ダイエーから盗ってきたリュックとバッグに詰め込む。

小河「さうで、これで必殺技が出来るぞ・・・まあいいや、とりあえずのび太のいる休憩室に向かうか・・・」

休憩室

のび「あ、小河８階は終わったのか？」

小河「ああ終わった、と、いうかテメエ１人サボってテレビなんか見てやがったか！」

のび「ああ、一応ニュースでも見て置こうと思って・・・」

小河「ならいいや」

テレ「次のニュースです。 昨日午後3時ごろ桜島SAにバスが強引に突っ込み16人死亡、40人が壊れたゲートなどに当たり怪我を負ったそうです。」

今、現場にアナウンサーの桜丘さんが行っています。 桜山さん！」

桜丘「現場の桜丘です！あの、岡島さん？私は桜山じゃありません！次行ったらお前をぶつ殺すぞクサレジジイが！」

岡島「んだと！このクサレ女が！こっちこそお前を殺すぞ・・・」

テレ「ピーーーーーー見苦しい表現がありました。」

視聴者の皆さんには大変ご迷惑をおかけしました・・・いや、こんなで迷惑がるアホな視聴者はいないか。 まあいいや、乱闘が終了したためニュースに戻りませ！」

桜丘「はい、こちら現場の桜島SAです。 昨日ここにバスが突っ込み16人が志望・・・じゃねえや、16人が死亡、40人が重軽傷を負いました。 この事故で、桜島SA売店の店員がその突っ込んでくるバスのナンバーなどの写真を取ったため、NE CO西日本と警察は、九州全土のいたるところにポスターを貼り付け、見つけて通報した方には通報で10万円、確保して警察に突き出すと1000万円の賞金を送ることにしました。 見つけた方はすぐに110番をお願いします！そのバスのナンバーは練馬164と75-88です！ご協力おえ害します！ 以上桜島SAから桜丘でした！」

小河「あのさあ、そのバスってもしかして・・・」

のび「俺たちの乗ってきたバスだよな・・・」

のび&小河「・・・」

小河「また別のバス探さないと・・・」

のび「そうだね・・・」

岡島「次は気象情報です！気象予報士の前田さんをお願いします」  
前田「はい、気象情報をお伝えします。今日の天気は鹿児島は  
晴れのち雨、鹿屋は晴れのち曇り、種子島屋久島地方は雨、奄美地  
方は晴れでしょう！

（中略）

最後に桜島上空の風向きです。今日午後3時の風向きは西の風  
10mで、噴火をすると火山灰は鹿児島市街地方向に吹くでしょう  
！」

のび「この風向きって必要なの？」

小河「お前はバカか、これは重要だぞ」

のび「別に桜島の上空の風向きなんてどうでもいいでしょ」

小河「アホ、これは風向きがどつちかで洗濯物を外か中に干すか  
が変わるんだよ、噴火したら灰が降るから・・・」

のび「灰が降るんだ・・・」

小河「まあ、お前が知らないのも無理は無いからな」

のび「それもそうだ」

9時34分

次回へ・・・

何やってやる！

アンブレラ鹿児島支社7F 休憩室

小河「くそ！RPG-7を分解すんじゃない！」  
のび「流石、ラスボスは強い」

凄い唐突な始まり方であった。

ちなみに、今やっているのはメタルギアソリッド3 SNAKE  
EATERをやっているところである。

小河「くつそー、やっぱりサバイバルナイフでやるしかないか！」  
のび「ガードされちゃあ仕方ないからね」  
ザ・ボス「後5分！」

小河「ヤベ！後5分しかねえじゃねえか！」  
のび「早くしないと！」

小河「分かってるよ！最初からサバイバルナイフでやればよかった！」

ガチャ！

ドアが開いた。

2人「誰だ！」  
静香「俺だ！」

のび「何だ、静香ちゃんか」

静香「何かこの部屋からRPG-7が分解されたとか聞こえたけどRPG-7何かどこにもねえだろ」

小河「ゲームの話」

静香「なんだよ、ゲームか・・・ゲーム!？」

小河「ああ、ゲーム」

静香「てめえ・・・」

小河「どうかしたか？」

静香「こんな非常事態にゲームなんかしてんじゃねえ!ポケナスが!」

小河「へーそんなこと言っていていいんだ」

静香「ああ、いいんだ」

小河「どうなるかわ・・・」

静香「黙れ」

バシューン!

チュドガン!

静香はなんと小河に向かってRPG-7を発射したのである。

のび「し、静香ちゃん?作者を打って大丈夫なの?」

静香「大丈夫じゃねえの?第一まだ続いてるし」

のび「そう・・・うヴもんだ・・・いじゃ・・・なくなてきで・・・すびよ」

しz「か「そ・・・うがもじれ・・・んな・・・」

nび「よげ・・・いnが・・・」

sひづk「どうずれが・・・いいんで・・・」

n b「mうでおぐ・・・れ・・・だもいれ・・・かも」

しz u k「こりや・・・や・・・ば・・・い・・・な」

n「おうずヴえ」

しz「ちょ・・・m・・・」

プツッ！

それっきりのび太と静香の意識は途切れた

作者死亡のため今回で終了させていただきます。

ご愛読ありがとうございました。

小河「終らせねえよ！」

2人「エーーーーーーー生きてたんかい！」

小河「もちろんだ」

静香「じゃあ、あの爆発で粉々になったのは何だ？」

小河「残像だ」



のび「おう！」

現実世界 鹿児島県 A市某所

作者「あー、眠いいなあ、なんかねえかなあ」

すると！

バリーン！

急に窓が割れた

作者「何だ！」

静香「フッフッフッフ・・・お前の命を奪いに来た、大人しく死ね」

作者「えっ！？ちよっ！まっ！」

のび「往生際が悪いな、静香ちゃん、やっちゃって」

静香「あいよ、それじゃあ、あばよ」

作者「うわあああああああ！！！！！！！！！！」

バン！

静香は作者を撃ってしまった。

作者「う、うがあ！や、やられた」

バタッ！

作者は倒れた。（死んだといったほうが正しいのかな？）



10時2分

作者死亡！

この小説は一体どうなるのか！

次回へ続く？

間違っちゃいました(笑)

現実世界 鹿児島県 A市某所

作者「う、うーん、あれ？何か悪い夢を見ていたような気がしたな。気のせいかな？まあいいや」

のびハザ世界 鹿児島市 アンブレラ鹿児島支社

小河「のび太、てめえどっからE Z - G U Nを持ってきた」  
のび「そのゴミ箱から」

小河「なんてところに捨ててあるんだよ、こんな貴重品を」  
静香「これも捨ててあつたぞ」

小河「このバンダナは・・・バンダナじゃねえか！」  
のび「こんなマスクも！」

小河「今度はフェイスじゃねえか！何てもんが捨ててあるんだ！ここは」

ドラ「知るか」

いつの間にやらやってきたドラえもん

小河「どっから出てきた」

ドラ「そのドアから」

小河「んで？お前の担当のところには何かあったか？」  
ドラ「何も無かった」

小河「まだ見つかった物は大量のT - ウイルスぐらいか・・・」

そして、全員休憩室に集合したが、何も無かったという。

のび「何でたいした物が無いんだろ・・・」

スネ「田舎だからじゃない？」

小河「田舎って言うな、殺すぞ」

スネ「ヒイイイイ！！！！！！！！！！」

小河「つたく、これでも鹿児島市は鹿児島で一番街なんだぞ」

ジャ「でも、いろいろあるはずなんだけどな・・・」

鳥柴「まあまあ、焦らず基地に戻って作戦会議でもしませんか？」

骨川「そうしたほうがいいぞ」

スネ「おわっ！スネ吉兄さん久しぶりだね」

骨川「俺はいつもいるぞ・・・出番無いけど・・・」

鳥柴「それを言ったら私もですよ・・・」

ドラ「はいはい、言い争いはいいから、ここのプレートを見て」

静香「何かあったんか？」

ドラ「ここはアンブレラ鹿児島支社のちゃんとしたビルじゃない

！」

スネ「どういうこと？」

ドラ「ほら、アンブレラ鹿児島支社5号ビルって書いてある」

全員「・・・・・・・・・・・・・・・・」

静香「アンブレラ鹿児島支社がここだって言ったのは誰だ」

小河「俺だけど、最初に見つけたのはドラえもん」

静香「ドラえもんをスクラップにするか・・・」

のび「ストーップ！そこまでする必要はない！」

ジャ「そうだぞ、全く」

小河「本当容赦ねえな」

健太「怖・・・」

と、言うわけでチームに分けて探すハメになった。

チーム分け

小河チーム 小河、安雄

ドラえもんチーム ドラえもん、のび太

静香チーム 静香、鳥柴

スネオチーム スネオ、スネ吉

ジャイアンチーム ジャイアン

小河「つー訳で全員探索START!」

骨川「何故にスタートが英語？」

小河「スルー推奨」

骨川「そうしよう」

ジャ「何で俺は一人なんだ!？」

小河「嫌がらせ（笑）」

ジャ「わらうところじゃまい!」

小河チーム

安雄「今度はどっちの車で・・・」

小河「もちろん俺のインターだろ」

安雄「んだと、コノヤロー!」

小河「今度は運転させてやるから」

安雄「そういう問題じゃ・・・」

小河「黙れ、殺すぞ」

安雄「黙るであります!」

小河「よろしい」

んで、適当に車を走らせて国道10号線鹿児島北バイパス

小河「安雄、こんなとこに来てどうするんだよ」

安雄「ただ車の運転したいだけ」

小河「馬鹿じゃねえの？それより、メーターを見る」

安雄「どうした？メーターに何が・・・あ！」

安雄が見たもの、それは、ガソリン残量が少ないという警告灯と、ガソリン残量メーターが、赤の上ののっけていて、もう１リットルも入ってなさそうな状況である。

安雄「おい、ガソリンあとどれくらいだ？」

小河「多分０．５も入ってないと思う」

安雄「どれくらい走れそう？」

小河「多分４？ぐらいかな、マフラー変えたし」

安雄「４？か、ん？待てよ、マフラー変えた！？」

小河「変えたよ、夜中のうちに」

安雄「どうりでうるさい訳だ」

小河「うるさいとか言うな」

安雄「うるさいんだ・・・」

バキューン！

安雄「ヒイツ！」

小河「それ以上文句を言つとお前の命は無い」

安雄「黙つときます」

小河「それでいい」

10時25分

次回へ・・・

## ガソリンスタンドで大乱闘

鹿児島市 国道10号線

安雄「ガソリン残量がヤバイ！」

小河「気合と根性でどうにかなる！」

安雄「なるかい！」

小河「いや、俺が言っただからどうにかなる」

安雄「そんなもんなのかな」

そして、10号線と3号線の終点（起点？）にあるガソリンスタンドまで走った。

小河「気合と根性でどうにかなったろ」

安雄「確かにどうにかなった・・・」

小河「まあいいや、ガソリンをハイオク満タン入れろ」

安雄「俺が入れるんかい！」

小河「運転手はお前だろ！」

安雄「確かに・・・」

そして、45L給油

小河「じゃあ、行くか」

安雄「そうだな」

と、言っただけでスタンドを出て車道に出たとたんどこから狙撃され、タイヤがパンクした。

小河「なんだあ」

安雄「タイヤがパンクしたっぽい」

小河「つーか誰だ！こんなことするのは！」

???「僕だよ・・・忘れたのかい？」

2人「お、お前は！」

そこにいたのは・・・

大体の読者が気づいたであろう

溺杉・・・

2人「溺杉！」

溺杉「違う！出木杉だ！」

2人「違う！お前は溺杉だ！」

溺杉「だから、出木杉だって言ってるだろうが！」

安雄「そんじゃあ、作者に決めてもらおうか」

小河「溺杉で」

チーン

溺杉「結局それなのか！」

小河「当たり前だろ、それがお前の名前なんだから」

溺杉「違うって・・・」

バキューン！

溺杉「グバァ！」

ガキヤーン！

溺杉は小河にM37（12ゲージショットガン）でかなりの至近距離から撃たれて10mぐらい吹っ飛んだ

小河「作者に逆らうんじゃねえよ、何様のつもりだこの愚民が」

安雄「うわー、愚民呼ばわりだ・・・」

小河「てめえもあいつと同じようにしてやるうか」

安雄「ひえーひえー」

小河「・・・ん？どうした安雄、何かあったかいつの間にやら俺

M37持つてるし、溺杉は壁にめり込んでるし・・・」

安雄「自分のしたしと覚えてないのか」

小河「俺何した？」

安雄「溺杉をM37で撃ってから溺杉を愚民呼ばわりしてた」

小河「あー、そりゃあ裏が出たな」

安雄「え？」

小河「滅多に出ない俺の裏の性格」

安雄「二重人格ってこと？」

小河「そうなるな、でも、裏が出るとそこだけ記憶が飛ぶんだよ」

安雄「へえ」

小河「つー訳だ。 ってか、溺杉は生きてるのか？」

安雄「死んだんじゃない？」

溺杉「勝手に殺すな・・・」

バキューン！





フイイイイイイイイイイイイン！ドガン

小河「何だ！」

安雄「溺杉が瞬間移動した！」

小河「それもだけど！血が増えてる！」

安雄「また裏が出てM37で溺杉を撃った」

小河「また裏が出たか・・・まあ、強いからいいんじゃない？」

安雄「いやいや、表でもT-ウィルス飲んだ後に出来る必殺技も強いよ」

小河「たしかにそうだなゝアハハハハハ」

10時40分

次回へ・・・

## 溺杉の悲惨な物語

溺杉「くそ・・・やられっぱなしだ・・・裏切ってもかわんねえ・・・」

ぼやく溺杉

溺杉「よし、スネオチームでも襲うか」

と、言うわけでスネオチームのいるところ

スネ「スネ吉兄さん、今度僕のヘリのラジコンに爆撃装置付けてよ」

骨川「いいぞ、そのうちやって・・・」

溺杉「もらった!」

グシャ!

溺杉はスネ吉に刀で切りかかった。

骨川「グハア!」

スネ吉は真つ二つになった。

スネ「スネ吉兄さん!」

溺杉「次は君だよスネオ君」

スネ「溺杉、後ろ見ろよ」

溺杉「騙されるかボケが!」

溺杉はスネオの忠告を無視した。

そして、

???「死ねやこのボケナスが！」

バキヤーン！

溺杉「ギャブ！誰だ！」

溺杉を金属バットで殴ったのは、スネ吉・・・

溺杉「お前！真つ二つになったじゃないか！」

骨川「ああ、あれか。あれは残像だ」

溺杉「何だと！」

2人「さうで、どうするかな・・・」

スネ「言うまでも無いけど」

骨川「RC大空襲でもやるか」

スネ「そうだね」

ドドドドドドドオドドドドドドド！！！！！！！！！ドガン！！！！！！

！！！！！！

溺杉「ギャアアアアアアアアアアアアアアア！！！！！！！！！！

！！！！！！

溺杉は飛んでいった。

しかし、飛んでいった先に居た人物は・・・



お前ら何でここにいる！

鹿児島市 鹿児島中央駅付近

小河「安雄・・・」

安雄「何だ？」

小河「運転かわれ、この車は俺のだ」

安雄「分かったよ、変わるよ。 けど、頭にシングルアクションアーミーSAAを突きつけるのをやめろ」

小河「止めるから変われ」

安雄「分かったよ！」

変わっている途中に、どこからか・・・

???「おい、あれって健太じゃねえのか」

???2「そうだよね、でも車を運転してるぞ」

???3「一応行ってみるぞ！」

???2、1「おう！」

小河「えーっと、だれか俺の名前を呼んだような気がするんだけど」

???「気のせいじゃないぜ」

小河「誰だ！え、ちよつと待て何でお前らがここにいるんだ？」

安雄「知ってる奴なのか？」

小河「知ってるも何も俺の友達だよ」

???2「そういうことだ、よろしく」

小河「んで？何でここにいる和哉、博人、正輝」

和哉「あれだよ、JRでビッグ メラに行つて、帰ろうとした矢先に・・・」

博人「ゾンビがいて」

正輝「こりゃあバイオハザードだな」

小河「呑気な奴だな」

和哉「バカ、これでも昨日の夜は苦勞したんだぜ、寝れなかったもんな」

正輝「そうだぞ」

小河「・・・どうでもいいこといつてるうちに逃げよう」

博人「ちよつと待て、このまま俺らは置き去りか」

小河「着いてきたきゃあ着いて来てもいいけど（チツ！）」

3人「もちろん着いて行く」

小河「じゃあ乗れ、俺が運転する」

和哉「おいおい、健太お前免許持つてねえだろ！」

小河「非常時だからいいんだよ！」

正輝「そういう問題なのか？」

小河「そういう問題」

そして、19時35分

### 全員集合

のび「時間が飛びすぎじゃねえか？」

小河「うるさい」

鳥柴「そういえば3人増えてませんか？」

小河「ああ、3人増えた、お前ら自己紹介でもしとけ」

和哉「吉松和哉です、よろしく」

正輝「伊藤正輝です、よろしく」

博人「松下博人です、よろしく」

全員「よろしくー」

スネ「でも、ただえええ出番の無い僕等が・・・」  
ジャ「出番がなくなりそう・・・」

骨川「なのは・・・」

鳥柴「気のせい・・・」

ドラ「なのだろうか・・・」

小河「そんなこと無いから（笑）」

5人「・・・」

19時53分

次回へ・・・



敵はどこからでも・・・

和哉「文句言ってる奴がいるけどいいのか？」

小河「解決策はある」

正輝「どんな？」

小河「チーム変更」

全員「それかい！」

と、言うわけでチーム分け

小河チーム 小河、和哉、正輝、博人、安雄

のび太チーム のび太、ドラえもん、スネ吉、スネ夫

静香チーム 静香、鳥柴、ジャイアン

全員「1チームの人数多っ！」

小河「しょうがないんだよ、じゃないと出番が関係してくるんだよ！」

ドラ「まあ、俺たちにはグッドニュースなんだけどな」

ジャ「確かにそうだけどな」

小河「まあ、俺の都合だけどね」

ドラ「あ、電話だ」

ドラえもんは電話にでる。

ドラ「ドラえもんです」

社員「アンブレラデス」

ドラ「何だと・・・」

社員「そちらに特殊部隊U・B・C・Sを送りましたので、それを通告しました。 それでは」

ドラ「待て――――――――――」

もちろん待たない。

ドラ「切られた」

のび「特殊部隊ね」

正輝「最悪だな……」

博人「昨日ビッグカ ラなんかにいこうとしなきゃよかった……」

和哉「本当だよ……」

同時刻 鹿児島市 谷山港

リシングスキー（以下リシング）「さてと、ターゲットは全員確認したか？ 確認したら行くぞ」

リシーツァ（以下リシー）「了解」

エスター（以下エス）「了解」

ヤノフ（以下ヤノ）「了解です」

セイカー（以下セイ）「了解」

リシング「街中くまなく探せ、そして、全員抹殺だ」

エス「そういえば、街で合流するはずの奴がいると聞いたんですけどそいつはどうするんですか、隊長」

リシング「大丈夫だ、合流地点を決めてある、まずはそこに向かう」

つー訳でツエルノヤルスク





市民「うわあああああああ……！！！！！！！！！！！！」

市民は死んだ。

リシング「大丈夫か？ 溺杉」

溺杉「うづうづうづ、もうそろそろヤバ……い」

溺杉はそのまま気を失った。

リシング「医療班！早くこいつを治療してやれ！」

そのまま医療班は溺杉を運んでいった。

リシング「さて、そろそろいく・・・」

プ  
ツ  
ツ  
！

鹿児島市立病院

小河「さっさと寝よう、つー訳で全員寝ろ」  
全員「りょーかい」

そして、次の日7時13分 全員同時に起床

それから30分後

和哉「なあ、健太」

小河「どうした」

和哉「さっきすっごい中途半端で終わらなかったか？」

小河「ああ、いいんだよ、こうでもしないと俺らの出番が無い」

和哉「そういうことね」

小河「そういうことだ」

のび「敵はいない方がいいけどね」

ドラ「溺杉はさっさと殺せばよかった」

そこに鳥柴がやってくる

鳥柴「みなさん、いいものを拾ってきました」

ジャ「いいものですか」

鳥柴「いいものです」

スネ「もしかして、エ 本・・・」

スネ夫以外「それはお前だけだろうが!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「!!!!!!」

スネ「ギャブ!!!!!!!!!!!!!!」

スネ夫は全員に蹴つ飛ばされて甲突川まで飛んでいった。

小河「・・・ったく、何を考えてんだろうな、全く」

正輝「完璧なアホだ」

博人「ただの馬鹿だな」

骨川「スネ夫がそんなに変態だとは思ってなかった」

静香「最低」

鳥柴「最低ですね」

のび「ナルシストだけじゃ収まらず変態になったか」

ドラ「消したい」

7時51分

殆どのキャラがスネ夫を罵倒したところで次回へ・・・

さらば溺杉・・・

小河「んで？いいものって何？」

鳥柴「この箱の中に入ってます」

そこにあるのは縦横1mほどの木箱

のび「鳥柴さんどうやってこんなに重そうな物を持ってきたんですか？」

鳥柴「ドラえもんさんにスーパ―手袋を借りました」

のび「そういうことですか」

正輝「んじゃあ開けてみますか」

博人「どうせ物騒な物なんだろうけどな」

箱の中身

サバイバルナイフ 13個

M K 2 2 13個

M 1 9 1 1 A 1 13個

X M 1 6 E 1 7個

A K - 4 7 1個

M 6 3 3個

M 3 7 2個



S V D	3 個
R P G - 7	2 個
グレネード	2 0 0 0 個
白 燐 手 榴 弾	1 2 0 0 個
ス タ ン グ レ ネード	4 0 0 個
チ ャ フ グ レ ネード	5 0 0 個
ス モ ー ク グ レ ネード	3 0 0 個
T N T	1 0 0 個
ス コ ー ピ オ ン	5 個
D S L i t e	4 個
D S i	3 個
D S i	L L 6
ポ ケ ッ ト モ ン ス ター	ホ ワ イ ト 6 個
ポ ケ ッ ト モ ン ス ター	ブ ラ ッ ク 6 個

和哉「ものすごいな」

静香「RPG-7が2個も増えた」

安雄「つか何でDSとポケモン最新作が入ってるんだよ？しかも1個足りないし」

小河「そこに関しては問題ない」

ドラ「何で？」

小河「俺がブラックを持ってるからだ（実話）」

安雄「そういうことか」

スネ「にしてもかなり武器が増えたね」

ジャ「そうだな・・・まあ、人数が増えたからいいんじゃないか？」

スネ「そうだね」

## 武器分け

サバイバルナイフ 12個〓全員

MK22 12個〓全員

M1911A1 12個〓全員

XM16E1 7個〓静香、和哉、正輝、博人、スネ吉、ジャイアン、安雄

AK-47 1個〓健太郎

M63 2個〓和哉、正輝

M37 2個〓小河、博人

SVD 2個〓小河、のび太

RPG-7 2個〓小河、ドラえもん

グレネード 2000個〓一人153個

白燐手榴弾 2600個〓一人200個

スタングレネード 400個〓一人30個

チャフグレネード 500個〓一人38個

スモークグレネード 300個〓一人23個

TNT 120個〓一人10個

スコピオン 5個〓スネオ、ジャイアン、鳥柴、小河、スネ吉

DSLite 3個〓のび太、スネオ、正輝

DSi 3個〓小河、和哉、安雄

DSiLL 5個〓スネ吉、鳥柴、ジャイアン、博人、静香

ポケットモンスター ホワイト 5個〓スネ吉、鳥柴、ジャイアン、博人、静香

ポケットモンスター ブラック 5個〓のび太、スネオ、正輝、和哉、安雄

和哉「ポケモンをどうしろと」

小河「通信すればいいんじゃないの？」

正輝「そういうことか！」

博人「いや、そんなことやってる場合じゃ・・・」

3人「うるさい！」

博人「ゴメンナサイ・・・」

そして数分後

小河「チームに分かれて探索行くぞ！」

全員「オー！」

と、言うわけで小河チーム

安雄「車はどっちで行くんだ？」

小河「お前はアホか？5人だぞ？S2000だと定員オーバーだ」  
(S2000は2人乗り)

安雄「そっぴゃそうだ。でもインターも定員オーバーだろ？」

小河「4人乗りだから、後ろに3人乗ってもだいじょうぶだからいいが」

安雄「まあいいか」

和哉「ようやく終わった」

正輝「話がなげえんだよボケ」

小河「正輝、黙れ一週間GTA：VCS貸すって言ったのに今日回収しやがって」

正輝「現実の話は止めとけ」

小河「はいはい」

ようやく話が終わったのでインターに乗って出発

乗車席

—	ハ〓ハンドル
—	ハ〓小〓小河
—	安〓小〓安〓安雄
—	— 正〓正輝
—	正和博〓和〓和哉
—	博〓博人
—	武器等〓トランク
—	—

小河「全員ハンドガン（M1911A1）とサバイバルナイフと  
麻酔銃（MK22）持ったか？」

4人「持ってたゝす」

小河「出発しまっせ」

博人「何じゃそりゃ」

小河「うるせえよ」

そこで、鹿児島県道16号線滝ノ神<sup>トンネル</sup>隧道から300m吉野側

小河「一応ハンドガン構えとけよ、何か嫌な予感がする」

そこから500m先

隊員A「隊長！こちらに向かってくる車があります！」

リシング「敵さんが向かってきたんかな？狙撃班！狙撃しろ！」

隊員B「了解！溺杉さんに突入さs・・・」

バラバラララララ！！！！！！！！！！

隊員B「ギャアアアアアア！！！！！！！！」

溺杉「溺杉って言うんじゃないねえ」

隊員B「真珠い目卯フえっ越路えふよc祖父小h!!!!!!!!!!!!!!

!!!!!!

「は？なにをはおはぼい」

隊員B「そのまま特攻しろ！人間爆弾溺杉！」

溺杉「ふふあげんはmgえぞ！」

隊員Bは溺杉の口の中に時限爆弾を仕掛けたようである。

小河「あれは・  
・  
・」

安雄「溺杉だよな・・・」

小河「よし！轆二つ！」

[illegible]

I  
I  
!  
!  
!  
!  
!  
!  
!  
!  
!

└

プ  
チ  
ッ  
！

溺杉「ふあががががが！！！！！！！！！！」

その10秒後！ 溺杉が爆発した。

安雄「おわっ！？ 溺杉が大爆発したぞ！」

小河「あのやろう、死ぬ気で突っ込んできたのか？」

そういつている間に溺杉の右腕が飛んできてボンネットの上に乗った。

小河「本当に死んだよ……」

安雄「さらば、溺杉……お前のことは3分ぐらいは忘れないよ」

博人「3分つて・・・」

8時59分

次回へ・・・

スパイ・・・だったんだ

鹿児島市 吉野町 吉野公園

今、溺杉の墓を作り終わったところである。

小河「あばよ、溺杉・・・」

安雄「じゃあな、あの世で楽しく暮らせよ」

溺杉があの世で楽しく暮らせるわけがない。

何故なら溺杉は地獄送りになったからである。

溺杉「チクシヨオオオ！！！！！！裏切るんじゃないかっただあああ  
あああ！！！！！！！！」

現在後悔中。

小河「しっかし何で溺杉は爆発したんだ？」

和哉「特殊部隊とやらの裏切られたんじゃないかねえの？」

小河「そうか、そういうことか！」

安雄「納得納得」

そのころU・B・C・S部隊基地

リシング「しっかし諜報員はまだ来ないのか？」

エス「今来ました」

ヤノ「入れますか？」

リシング「そりゃあ入れるさ。 なんせ俺たちのためにスパイを



していてくれたんだからな」

???「ただいま到着しました」

リシング「ご苦労、でも遅かったな？」

???「いや、抜け出すのにも一苦労でしたよ。しょうがないから麻酔で眠らせておきました」

リシング「ああ、でもまだ生きてはいるんだろ？」

???「ええ、会社のほうからは生きて捕らえろと言われてますからね」

リシング「だったな、じゃあ、そいつらを捕獲しに行く。鳥柴、場所はどこだ？」

鳥柴「イオンの屋上駐車場に置いてあります」

リシング「よし！捕獲に行くぞ！」

全員「了解！」

またまた吉野公園

安雄「ん？あれって鳥柴さんじゃないのか？」

小河「そうだよな、一人で何やってるんだ？こっちに向かってくるけど？」

そのとき！

バンッ！

博人「ウワッ！」

バタッ！

正輝「おい！博人！大丈夫か！？」

博人「zzz」

正輝「何だ、寝てるだけか」

和哉「鳥柴さん、あんた一体何者だ？」

鳥柴「フフフフフ、あなたたちが知る必要はありません！おとなしく眠っていてください！」

バンッ！バンッ！バンッ！バンッ！

4人「アアアアア・・・」

バタッ！

全員「zzzz」

鳥柴「全員眠らせました」

ヤノ「了解！帰還してください！」

鳥柴「はい・・・」

10時22分

次回へ・・・

だんだんノリが無理の無いバイオ？みたいになってきたよ

1日経過 11時39分

U・B・C・S 部隊鹿児島本部基地地下

小河「うーん、あれ？ここは何処だ？」

???「気がつきましたか？」

小河「その声は・・・鳥柴さんか・・・」

鳥柴「フフフフフフフフフフ」

小河「まさかあんたがスパイだったとはな」

鳥柴「まったく、あなたたちには苦労しましたよ」

小河「なんだと！」

鳥柴「~~~~~」

1時間」

和哉「うーん、あれ？健太、ここ何処だ？」

小河「どうやら俺らはうまく騙されていたみたいだな」

和哉「ツーことは鳥柴さんは裏切り者？」

小河「それ以前の問題でスパイだった」

和哉「うーん、俺にはわかんねえや」

ドーン！

小河「なんだ!？」

鳥柴「アンブレラ本社が吉田地区にT・ウイルス入りの爆弾を発射したようです」

小河「ここは何処だ」

鳥柴「吉田地区です」

小河「完全OUTじゃねえか！」

ドラ「まずは逃げるのがいい！」

のび「鳥柴さん！縄を！」

鳥柴「分かりました！」

全員縄解除

[illegible]

りシング「鳥柴！そいつらの縄を・・・もう解いてたな」

鳥柴「すいません」

りシング「とにかく逃げんぞ！いま本社から連絡があつて俺達U・

B  
C  
S  
部隊は用済みだから死ねとのことだ」

ヤノ「おとなしく死ねないのでとりあえず反抗します」

リシー「同じく」

「俺もやるか」

りシング「つーわけだ手を組もうぜ」

安雄「怪しい……」

リシング「なんか言っただかその帽子のガキ」

安雄「言っておりません！」

リシング「まあいいや、それじゃあ外にでるぞ」

全員「才」！

1  
2  
時  
3  
分

次回へ  
・  
・  
・

## 溺杉大復活！

セイ「元・隊長、どうしますか？」

リシング「セイカー、誰が元・隊長だって？」

セイ「あんたですよ」

リシング「あのなあ、俺は元U・B・C・S・部隊隊長だ」

セイ「元じゃないですか」

リシング「気にすんじゃねえ」

セイ「・・・」

リシー「どうでもいいことしてないでさっさと逝くよ！」

エス「逝くよが違う・・・」

リシー「死ね」

エス「酷い」

ドラ「さーで、バカなことをいつてる人たちは放っておいてあの人を復活させますか」

のび「あの人？」

ドラ「溺杉」

のび「あゝ」

ドラ「タラリタッター違法道具N o . 4 死人復活装置」

安雄「何それ？」

ドラ「名前の通り」

小河「じゃあ・・・」

ドラ「溺杉を復活させよう！」

全員「おー！」

バンガンゴンギンランボンタンエンシンダランランルー（意味不明）

ガキヤーン！

溺杉「うーん、こっはどっ・・・だ」

静香「よう、  
溺杉」

溺杉「し、静香ちゃん？」

静香「そうだ、お前、罪は償え」

溺杉「えっ？ちよっ！まつ！」

バキッ！ゴキッ！ガキッ！

溺杉「あぎゃ ああああああああああ！！！！！！！！！！」

溺杉は復活した途端集團リンチを受けた。

溺杉「酷いや・・・」

「お前は今日から俺たちの奴隷だ。覚悟しろよ」

溺杉「そんなー！」

小河「裏切り者に選択権はない」

スネ「おっ！いいこと言うね小河」

溺杉「ハア、今すぐ死にたい」

20分後

のび「あのさあ」

小河「何だ？」

のび「そっぴや俺谷山Ⅰ・Ⅱで事故った後車が無いよな」

小河「そっぴやそっぴだ」

のび「車くれ」

小河「分かった、ちよつと待ってる」

30分後

ものすごい爆音と共に小河は車を持ってきた。

のび「それって・・・」

小河「インター」

のび「何故？」

小河「何となく。でもDC2型じゃないから俺のとはかぶんな  
いだろ？ ナンバーだって俺のは5ナンバーで今持ってきたDC5  
型は3ナンバー」

のび「わかってらあ、だから何でインター？」

小河「近くのの車屋に行ったらちょうど目に入ったから」

のび「まあいいけどさ」

小河「に、してもシビックタイプRはまだ作ってるのになんでイ  
ンターは製造終了！？ 誰か！誰か俺に教えてくれ！なんでインテ  
Rは2代で製造終了なんだよ！俺インター一番好きな車なのによお  
！」

のび「落ち着け！」

小河「・・・何でだよお・・・」

次回へ・・・





スネ吉は自暴自棄になっていた。

そこに！

ハンター　　が飛び掛る！

そして、

フロントガラスを突き破り・・・

骨川「う、そだろ・・・死にたくない・・・よ」

フロントガラスの破片がスネ吉に刺さる。

そのまま、ハンター　　は・・・

スネ吉の首を跳ね飛ばす。

そして、車を引き裂き大爆発が起こり、スネ吉は完全にいつペンのチリも残すことなく消滅して死んだ。

スネ「う・・・そ・・・スネ・・・吉・・・兄さん？」

のび「スネ夫・・・」

スネ「まだ・・・いろいろ教えてもらいたかったのに・・・なんで死んじゃうんだよ！」

ジャ「ドラえもん！あの溺杉を生き返らせたアレじゃだめなのか！？」

ドラ「無理だよ・・・この世に一つでも体のパーツがないと・・・」

溺杉「ドンマイ！スネ夫！」



仲間の死・

鹿児島中央駅  
アミュプラザ周辺

小河「さーて、ヤバイのは分かるよな？」

和哉「ああ、分かりたくねえほどに分かってる」

博人「くそ……何でこんな目に……」

正輝「弾が切れた（笑）」

小河「弾が切れたじゃねええええええ！！！！！！！！！！」

鳥柴「ギヤアギヤア喚いてないでこの状況を改善する方法を考えてください！」

いまの状況・  
・  
・

車ごとゾンビの群れに囲まれた。

静香「オラァ！」

ドガン！

ゾン「ギャオオオオオオオ!!!!!!!!!!」

RPG-7の威力は相変わらずだ。

静香「チツ！殺つても殺つてもキリがねえ！」

「ジブリだー！」

スネ「特攻だアアアアアアア！……！！！！！！！！！」

ドラ「おい！スネ夫！」

スネ夫はゾンビの群れに特攻を仕掛けた！

そして・・・

ドガン!!!!!!!!!!!!!!

爆発が起こった。

のび「スネ夫？ スネ夫オオオオオオオオオオ！！！！！！！！！！」

安雄「おい……何で？何でなんだよ！」

鳥柴「スネ夫さん……」

小河「……スネ吉が影響してるんだろ？な……」

「ど、どうして？」

小河「いや、だから……その……ええい！説明が面倒だ！エスター！説明しろ！」

「エス、えっ！？俺！？」

小河「そうだ」

エス「ま、いいか。まあ、つまりだな、その／＼スネ吉とやらが死んだだろ？」

全員「知ってる」

エス「それで……隊長、バトンタッチです」

リシング「そのままリシーに受け流す」

リシー「私はヤノフに受け流す」

ヤノ「セイカーへ……」

セイ「結局俺かよ．．．まあいい、何だっけ？ スネ吉とやらが死んで、生きる希望を失ったということだろう。そうとう尊敬してたしな」

「だからって……死んじやうなんて！」

ジャ「こんなことって・・・こんなことってアリかよ！」

小河「・・・今はいつ誰が死ぬか分からない状況だ。気を引き締めておけ」

全員「はい・・・」

次回へ・・・

殆どカーチェイス!?

## 産業道路

前回、ゾンビを全滅させた後一行は、サーシャとかいう女に追いか  
回されているのであった。

小河「安雄!和哉!正輝!博人!ちゃんと捕まってるよ!今から  
強引な運転するから!」

4人「何だとー!」

小河「オラア!サイドターン!」

4人「オワアアアアア!!!!!!!」

助手席の安雄はそこまでも無いが、後ろの3人はかなりキツイ。

鳥柴「私もやってみますか!」

ガキヤ!

ギャアアアアアア!!!!!!!

鳥柴「成功ってわあっあああああ!!!!!!!」

見事に駐車禁止の標識に突っ込んだ。

が、そのまま駐車禁止の標識を引きずりながら走っていった。

鳥柴「何で駐車禁止なんかに!」

運が悪いのだ。

ドラえもんキャラ全員はクリア。

しかし、U・B・C・S部隊は、サーシャの車に突っ込み爆死した。

のび「うわわわわわわわわ．．．また死人が．．．」

すると、車がぶつ壊れた為、サーシャが異常な速さで走ってきた

「サー、まてやあああああ！……！！！！！」

「クソガキども！！！！！！！！！！！！！！！！！！」

「……………」

ドラ「この先って……」

「じゃ、ガスタンクじゃねえか！」

小河「またまたサイドターン！」

4人「ウゲツ！」

「サー」とまれないイイイイ！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！」

ドガ——ン!!!!!!!!!!!!!!

サーシャはガスタンクに突っ込み大爆発した。

小河「おうおう、過激だな」

次回へ  
・  
・  
・

生き残ってるやつの確認と、あの建物へ・・・

生き残りリスト

・のび太

・ドラえもん

・静香

・ジャイアン

・安雄

・鳥柴

・小河

・和哉

・正輝

・博人

小河「少なくなったもんだねえ・・・」

ドラ「お前が粛清をしてたんだろぅが」

小河「粛清！？俺がそんな残虐非道なことをするわけがないじゃないか！」

したけどさ・・・  
小河



ドラ「怪しい・・・」

のび「んで？」こさあ・・・」

のび太達のいるところ。

それは・・・

アンブレラ鹿児島支部本部であつた。

静香「急にこんなとこまで何で飛んできたんだ？」

小河「状況を見れば分かるだろ？」

静香「どういうことだ？」

小河「思いつきり放置されてるのがわからねえのか？」

静香「もしかして・・・強引に終わらそうと・・・」

小河「遅くとも4来年の1月ごろ終わるかな？ それより前に4

0話になった時点で終了」

ジャ「そして、3部（仮）だろ？」

小河「ああ、そうだけど・・・」

全員「だけど？」

小河「いつ始まるか分からねえ」

全員「どんなんだー！！！！！！！！」

小河「来年の4月からは俺、中3だからねえ・・・」

のび「どうせ勉強しないだろ」

小河「どうだろうね」

ドラ「おい！」

和哉「んで？そんなこといいから入らないの？」



突入！

アンブレラ鹿児島支部本部

小河「突撃！」

全員「才——！！！！！！！！！！！！！！！！！！」

静香「全員どいてな！」

和哉「もしかして……」

全員「RPG-7！」

静香「そうだ！発射！」

[illegible]

! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! !

扉が吹き飛んだ。

ドラ、「うへー死ぬかと思った」

小河「んじゃあ、とりあえず固まっていけど」

正輝「ここが最後か・・・」

小河「ああ、この重要書類とかが取れば一応鹿児島支部に用は無い」

博人「じゃあ、その重要書類とやらはどこだ？」

小河「バツキャロー！今から探すんだよ！何寝言言ってるんだ！」

博人「ゴメンナサイ・・・」

安雄「……俺の武器全部弾切れた……」

ドラ「どうすんだよ」

ジャ「いいところにシングルアクションアーミーがあつたぞ」

安雄「弾がなきゃ意味が無い」

ジャ「500発ぐらいはある」

安雄「500発でどうにかしないといけないってことか・・・」  
小河「どうでもいいから全員行くぞ!」  
全員「おう!」

2F

静香「いかにも怪しげなものが大量に・・・」  
小河「ハンターの青汁浸けか?」

ハンターが大量に緑色の液体の中に入れられている。

のび「テメーらなんか怖くねえんだよ!おら!」

バキューン!

バリーン!

のび「あつ!やっちゃった!」  
全員「バカヤロー!」

のび太がミスってハンターの入った変なのをぶっ壊した。

ハン「ギャオオオオオオオ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

そして・・・

バリーン!バリーン!バリーン!

次々と入れ物を壊し・・・



小河「悪いのはデメエじゃねえよ」  
のび「えっ？」

小河「悪いのは全部アンブレラだ」  
和哉「そりゃあそうだ」

のび「でも、僕がハンターを出さなければ・・・」

小河「いやあ、お前のせいでハンターが出たんじゃない」  
ジャ「どういうことだ？」

小河「天井を見るよ」

天井には、なにやら怪しいタイマーがあつた。

小河「多分時間になったら出てきたんじゃないかな？」  
のび「と、いうことは・・・」

小河「お前は全く悪くないってことだ」

のび「よし！アンブレラなんか跡形もなく消し去ってやる！」  
全員「おー！」

のび「さよなら・・・鳥柴さん・・・」

生き残りリスト

・ のび太

・ ドラえもん

・ 静香

・ ジャイアン

・ 安雄

次回へ・  
・  
・

・  
博人

・  
正輝

・  
和哉

・  
小河





そして、デジカメとSD（HC）カードを全部入れた。

ドラ「そういえば、いつも首から下げてるのがあるけどそれ何？」

小河「俺のデジカメ」

ドラ「へえ」

静香「こっからドーンだ！」

全員「何イイイイ！！！！！！！！！！」

ドガン!!!!!!!!!!!!!!

全員「ギャアアアアアアアアアアアア！……！！！」

怪我を何人が負ったが、何とか機密書類部屋には入れた。

しかし・・・

博人「何だと……」

和哉「どういふことだ！」

正輝「空っぽじゃねえか！」

のび「既に遅かったか・・・」

小河「クソッ！アンプレラめ！」

「じゃ……どうするんだ？」

静香「とりあえず上を探索しようぜ。デジカメを一人一つとって、何かあったら撮影しよう」

安雄「そうだな．．．」

小河「やれることはやってから脱出しよう」

次回へ  
・  
・  
・



そして、1F 全員探索が終了した。

正輝「いや、もうダメだ」

小河「そーいや、博人は？」

和哉「やられた」

小河「えっ？」

正輝「ハンターにやら・・・」

グシヤ！！！！！！

全員「!!!!!!!!!!!!!!」

和哉「正……」

グシャ！！！！！！！！！！！！！！

2人とともにハンターにやられた。

小河「!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

安雄「小河……」

小河「アンブレラ……徹底的にぶっ潰してやる!!!!!!」

お前ら！わかったか！」

全員「いわれなくとも！」

小河「いくぞおおおおお！！！！！！！！！！！」

「!!!!」

全員「ウラァ！」

・ ・ ・ ・ ・

小河「・・・フウ・・・」

全員「どうにかなった・・・」

小河「よし、脱出しよう」

のび「そうだな」

ジャ「でも、また方法を探さなきゃ・・・」

静香「前回と同じでいいんじゃない？」

小河「溺杉は？」

全員「あ・・・」

小河「どうするか・・・」

全員「うーん・・・」

次回へ・・・

どう脱出するか・・・

国道10号線 鳥越隧道

小河「さて、どうする」

のび「脱出方法がないよな？」

静香「前回と同じくトラックで激突したらダメなのか？」

安雄「もうセロテープを貼りまくるのはイヤだ」

全員「・・・」

そして、結局出た結論がRPG-7でどうにかするっていう結論が出た。

そして、国道10号線 始良市境界付近

小河「えーと、レーザーカッターかなんかないかな？」

のび「何に使うんだよ」

小河「標識取るだけ」

安雄「アホか」

小河「今まで見つけた標識は大体取ってきてドラえもののポケットの中だ」

ドラ「証拠品」

中であつたもの

- ・国道3号線のおにぎり×2
- ・国道225号線のおにぎり×5
- ・国道10号線のおにぎり×4
- ・青看×73
- ・高速の標識×97
- ・警戒標識など×739
- ・

県道のへキサ  
×77

見事に片側2車線の路面が埋まった。

全員「バカかあああああ！！！！！！！！！」

!!!!!!

小河「うるせえバケどもがあああああ！！！！！！！！！！」

!!!!!!!!!!!!

のび「荒れてるなあ」

「じゃあんなことがあった後だからな……」

静香「だよな・・・」

そして、ドラえもんは大急ぎで片付けた。

[illegible]

!!!!!!

バコーン！バコーン！バコーン！バコーン！バコーン！  
バコーン！バコーン！バコーン！

そして、4時間ぶつつづけて撃ち続け……

ドゴーン!!!!!!!!!!!!!!

とうとう壁が崩れた。

小河「いそいで車に乗れ！」

全員「おう！」

小河「おりゃあああああ……！！！！！！！！！！」





んで？どうすんの？

旧国道10号線 重富橋周辺

のび「このままぶっ続けでいくぞ！」

小河以外「オー！！！！！！！！！」

小河「お前らバカか？」

ジャ「何がだよ？」

小河「だから、今行くのはやめろってことだ」

安雄「じゃあいつ行けってんだ！」

小河「ん？5・6年後」

全員「ざけんじゃねえ！」

小河「待て！俺らは全員まだ免許も持ってねえようなガキだ」

静香「それがどうした」

小河「大人と戦ったらどうなる？」

ドラ「負けそう」

小河「まあ、要するに、復讐合戦はいずれやろってことだ」

全員「・・・」

小河「今やつてもやられるだけだ」

全員「・・・」

小河「わかったか？」

全員「分かった・・・」

小河「おとなしくしたがつたな」

のび「それじゃあ、次はいつ行くんだ？」

小河「いつだろうな、お前らが中学校を卒業してからだろうな」

ドラ「おまえはどうするんだ」

小河「こいつら小5だろ、俺は中2」

安雄「どういうこっちゃな」

小河「お前らが中学を卒業する年に俺も高校を卒業できるという

わけだ」

全員「そういうことか！」

小河「そういうことだ」

のび「でも・・・学校はどうする？」

小河「うちの近所の学校にいきやあいい」

全員「そうだな・・・」

小河「とりあえず俺んち行くぞ！」

全員「おう！」

その後

2012年 3月 小河、中学校 のび太達 小学校を卒業。

2012年 4月 小河 高校 のび太たち 中学校入学。

2012年 11月 小河 バイクの免許を取る。

2013年 1月 小河 バイクで滑って少し怪我をする。

2013年 5月 のび太 自転車にようやく乗れるようになる。

2013年 7月 全員して自転車で鹿児島から福岡に行く

2013年 12月 ジャイアン 車に撥ねられ全治2ヶ月の大

怪我を負う。

2014年 3月 安雄 川原でスクーターの練習をする。

2014年 10月 静香 不審者に襲われるが、逆に懲らしめた。

2014年 12月 珍しく大雪（6?）がふつたので雪合戦大会。 雪玉に石を入れる不届き者がいた。

2015年 3月 小河 高校 のび太達 中学校卒業。

小河 卒業と同時に免許習得のため、自動車教習学校へ入学

2015年 5月 小河 自動車免許を取る。

そして、2015年6月

鹿児島県霧島市

小河「よし！全員行くぞ！」  
全員「おう！」

次回へ・・・

鹿児島県 霧島市 鹿児島空港付近

163



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3854v/>

---

ドラえもん のび太のバイオハザード X FIGHTERS

2011年8月18日12時09分発行